

ビジネスモデル・事業性評価コンサルティング

ワイガヤと定量評価をシームレスにつなげ、わかりやすさと正確性・客観性を両立！
 全ての関係者・有識者に対してオープンに、ビジネスモデルや事業性の評価、合意形成をご支援します。

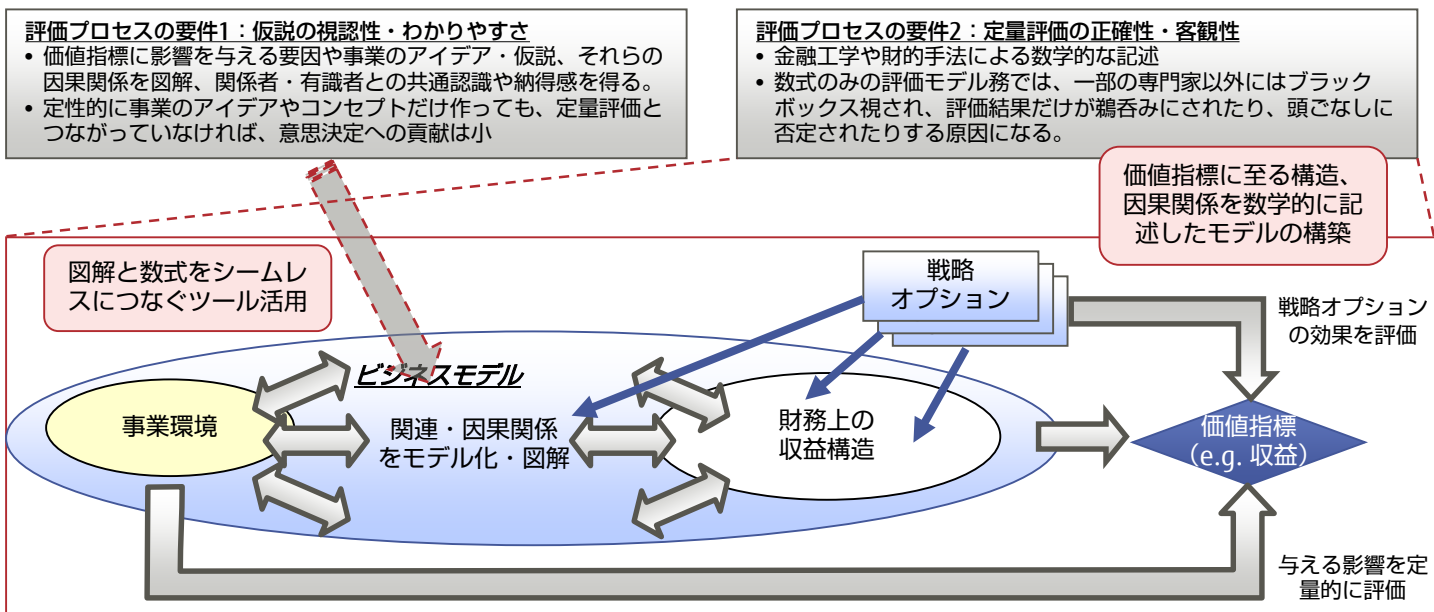
ビジネスモデルの収益性などを予測・評価・検証する「事業性評価」は不可欠なステップ！

IT投資や広告・ブランドの評価に定型的な手法や公式がないのは、それらに影響を与える要因が企業ごとに様々であり、かつ互いに関連を持つ複雑な構造であるため、ある要因の僅かな変化が思わぬ結果となるためです。だからといって、事前検証や定量評価に基づく判断をせずに事業に着手するのは、建築・土木建造物の設計において模型を用いた検証や構造計算をしないくらい危険なことです。

特に、新規性や不確実性が高かったり、先行事例がなかったりする事業（例えば、R&D投資・事業化の判断、地域ビジネス、福祉・医療）では、ビジネスモデルの収益性や採算性、リスク、優先順位などを予測・評価・検証する『事業性評価』は重要な課題です。

「仮説の視認性・わかりやすさ」「定量評価の正確性・客観性」の両立がビジネスモデル評価の納得度を高めます

事業の模型（ビジネスモデル）やその収益性を考える際、スプレッドシートを用いられることが多いと思われま。しかし、結果の整理・表示には便利なスプレッドシートも、検討・評価プロセスで常に正確性を保ちつつ改編し続ける柔軟性、大規模・複雑な事業になった際の視認性などの観点では不十分であり、衆知を集めた検討に相応しくありません。



ビジネスモデルや事業性を評価するプロセスが満たすべき要件として「仮説の視認性・わかりやすさ」「定量評価の正確性・客観性」の2つがあると富士通総研は考えます。両者をバランスよく連動させた検討・評価するプロセスこそが、関係者・有識者の意見を引き出し、納得度の高いビジネスモデルや事業性の分析・予測・評価を実現します。

これまでの実績、活用場面

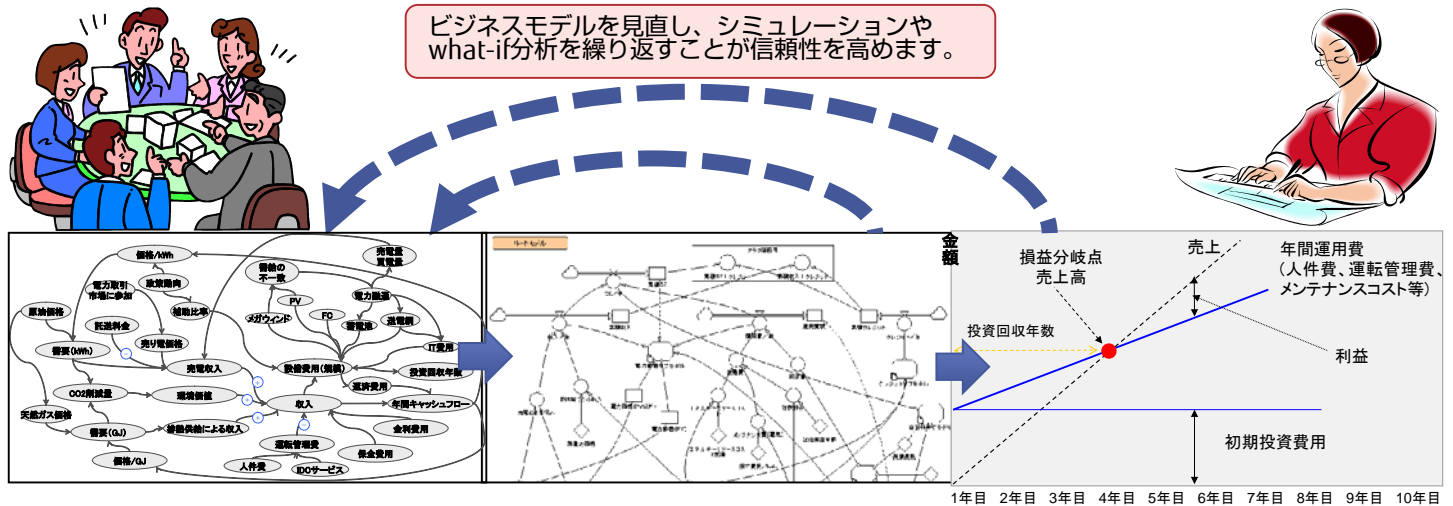
サービスや事業の企画そのものではなく、それらの評価や検証を通じた企画・計画・管理などの業務の高度化をご支援しております。

- 需要・事業性予測～事業計画立案支援 (製造業、ITソリューションサービスなど)
- コスト・リスク管理指標の体系化 (金融業オペレーション業務、製造業品質管理部門など)
- リスク管理の経済性評価、事業への影響度分析
- CEMS (地域エネルギーマネジメント) 事業性評価モデル構築
- マーケティング施策の評価～計画立案支援
- ビジネスモデル実行可能性の事前検証
- サービス品質の管理モデル構築 (ITアウトソーシングなど)
- ソフトウェアの障害原因に関する構造分析
- など

ビジネスモデル・事業性評価コンサルティングの進め方

ビジネスモデル（事業の仮説や重視すべき要因、それらの因果関係など）をシミュレーションによって評価し、目標値など想定される結果との差が大きければ、その差が十分に縮小するまでwhat-if分析（数式やデータを変えたら結果がどのようになるかを計算し、より良いシナリオを検討するプロセス）を繰り返すことでビジネスモデルを見直す『仮説検証サイクル』こそが、事業計画の信頼性を高めます。

アイデア出しや認識共有を主目的とする定性的な議論と、その実行可能性に関する定量的な評価との間をスムーズに行き来できることで、関係者・有識者との議論や合意形成が容易になります。



Phase1
関係者・有識者との議論、形式知化
有識者・関係者との議論（ワイガヤ）を通じて、対象とする事業の仮説や重視すべき要因、価値指標（NPV、ROI、IRR、投資回収年数など）、それらの因果関係を抽出し、ビジネスモデル図として形式知化します。

Phase2
ビジネスモデル図の定式化
要因間の関係を数式で定義することで、シミュレーション可能な定量モデルに落とし込みます。また、財務・業務データや客観的な統計情報など、シミュレーションに必要なとなる貴社内外のデータを収集します。

Phase3
シミュレーションとその結果の考察
定式化したビジネスモデル図を用いて、価値指標の値を算出します。また、想定されるシナリオを基にwhat-if分析を実施し、事業の採否や実施に向けた課題・解決策、実現可能性を高める施策などを抽出します。

取り組みテーマに応じて、最適なビジネスモデリング手法やシミュレーション技術を選択し、サービスとして提供できる知見や実績を数多く有していることが、富士通総研および本サービスの強みです。

想定する事業の仮説や様々な要因を網羅的に検討し、シナリオプランニング的な考察につなげる富士通総研の「未来モデリング」サービスとセットで実施するオプションも有効です。

| ビジネスモデリング手法/シミュレーション技術 | 特長・概要 |
|--------------------------|---|
| BME/BMT | 要因や因果関係の不確実性の考察に優れる。ベイジアンネットワーク理論を応用して富士通総研が開発した事業価値評価の手法/ツール ご参考) 定量的ERM http://www.fujitsu.com/jp/group/fri/services/business-services/business-consulting/assurance/menu.html?#menu-05 |
| システムズシンキング/システムダイナミクス | 時間的要因や因果関係の循環の考察に優れる。 ご参考) ワイガヤから始める事業性評価 http://www.fujitsu.com/downloads/JJP/Archive/Img/jp/group/fri/service/case/rep_vol5/rep05.pdf |
| FTA(Fault Tree Analysis) | 故障・事故などの望ましくない事象について、論理展開し、分解した要因について検証することで、故障・事故の発生確率やその因果関係を明らかにする。 |
| 構造方程式モデリング | 統計的手法であり、データが蓄積されている既存事業の検証・考察に優れる。 |
| ... | ... |

ご提供価格、期間
3か月、400万円～
(ご要件により個別にお見積)

このカタログに掲載されている内容については、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。 2013年6月

お問い合わせ先
株式会社 **富士通総研**
コンサルティング本部 ビジネスサイエンスグループ
〒105-0022 東京都港区海岸1丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー TEL:03-5401-8394